

平成23年度第8回地方独立行政法人京都市立病院機構理事会の概要

- 日 時： 平成24年2月29日（水） 16時～17時25分
- 場 所： 京都市立病院 4階会議室
- 出席者： 理事長 内藤 和世
理 事 森本 泰介, 新谷 弘幸, 棚橋 一博, 桑原 安江, 位高 光司,
山本 壯太, 小西 哲郎
監 事 長谷川 佐喜男, 中島 俊則

1 開会

2 議事等

第3四半期報告, 経営状況月次（1月分）報告

（主な質疑内容）

○ 診療報酬単価

→ 市立病院と同規模の都市型急性期の自治体病院では、平均水準として、入院診療報酬単価5万5千円、外来診療報酬単価1万5千円というベンチマークデータが示されている。市立病院の現状としては、入院、外来共にこの水準に達していない。

○ 財務体質

→・ 当院は、コスト面で、固定費比率が高い構造になっている。一般の急性期病院が医業収支で黒字を出すためには、人件費比率が40パーセント台にならないと厳しい。市立病院では、今年度は、第3四半期終了時点で目標値を達成する水準にある。これは、人件費に対し、分母となる医業収益が大幅に増えたためである。

・ 人件費比率を下げるといっても、職員数を減らすのではなく、まずは、効果的、効率的な医療提供により、収益性の向上に力を注ぎたい。

○ 健診業務

→・ 市立病院の人間ドックについては、従来、京都市職員及びその関係者が多数受診していた。平成22年12月に京都市健康保険組合が解散し、共済組合と協会けんぽに移行したが、昨年11月まで、協会けんぽとの契約ができておらず、一部のリピーターの方々が、当院で受診できない状況が生じていた。

・ 昨年度までは、市の組織に属していたこともあり、営業活動を行ってこなかった。現在は、日刊紙への広告掲載や、他の近隣の自治体、民間企業に対する営業活動を行うなど、受診者の増加に向けた取組を進めている。

3 その他報告事項

(1) 入院患者満足度調査アンケートの結果報告

（主な質疑内容）

→ 市立病院に対するイメージを尋ねる設問では、「安心」「安全」「親切」に関するポイントが比較的になくなっていて一方、「改革的でない」「活力があまり感じられない」というイメージ、印象を持たれていることがうかがえる結果となっている。その原因は、市立病院が長年培ってきた独特の風土とも関係しており、それを改めていこうと考えている。

(2) 外来患者満足度調査アンケートの結果報告

(主な質疑内容)

- ・ コンサルティング会社に委ねて調査を実施しており，他の医療機関の蓄積データと比較して，市立病院がどの程度の水準にあるのか等について客観的な分析，評価が可能になる。
- ・ これまでから，医事業務における窓口職員に対する接遇教育を積極的に行ってきたが，まだまだ足りない部分がある。
- ・ 売店，食堂についての評価は，入院・外来患者共に低い傾向にあるが，新館の整備により解消できるものと考えている。
- ・ 当院では，外来の予約システムや待ち時間の長さに大きな課題がある。待ち時間を短縮する（予約時間を守る）ことは当然として，患者が待っている間も快適に過ごせるようなサービスについても検討していきたい。
- ・ 患者満足度のほかに，地域満足度，職員満足度の向上も，法人運営において重要なテーマと認識している。

4 閉会